

島本町の歴史

「島本町」は大阪府の北東端にあり、京都府との府境に位置します。町の東南部では木津川・宇治川・桂川の三川が合流し淀川に流れ込んでいます。又、古代一級国道（西国街道）が町の中心を貫き、古くから水・陸ともに交通の要衝として栄えてきました。そして現在も多く、の史跡や文化財が残る歴史と文化の薫る町です。



若山神社のツブラジイ林

尺代のやまもも

大沢のすぎ

西国街道



「山崎通分間延絵図」

江戸時代の山陽道の呼び方で、都と九州の大宰府を結ぶ重要な幹線道路として発展しました。現在、旧街道に並行するように国道171号線が京都～西宮（この間を指し山崎通と呼ぶ）を結んでいます。

「山崎通分間延絵図」は文化3年（1806）道中奉行所が測量・調査し幕府に献上したものです。

水無瀬神宮



茶室「燈心亭」

後鳥羽天皇、土御門天皇、順徳天皇を祀ります。重要文化財の客殿、茶室に加え平成28年(2016)に本殿、茶室に他4件が国登録有形文化財（建造物）となりました。



「本殿」



「神門及び築地塀」

関大明神社



「棟札」

奈良時代の関所の跡で、廃止された後は「関戸院」として貴族や官人の公的な宿泊施設にあてられました。また、「鎮疫神」と記された扁額があり、山城との国境に建てられた疫神を祭る神社の一つとも考えられています。本殿（室町時代）と棟札（江戸時代）は、大阪府指定文化財です。

史跡桜井駅跡



「楠公父子訣別之所碑」

延元元年（1336）足利尊氏率いる大軍を迎え討つため、京を発った楠木正成が、ここ桜井の宿で別れ長子正行に遺訓を残し河内へと引き返らせたと、中世の歴史文学のひとつ「太平記」に記されています。大正10年（1921）に国史跡に指定されました。

若山神社



「東大寺村おかげ踊図絵馬」

大宝元年(701)勅命により素盞鳴命を祭神として勧進されました。天保2年(1831)境内でおかげ踊りが催され、その様子が描かれた絵馬が残っています。（大阪府指定有形民俗文化財）「神像(伝 聖徳太子七歳像)」は平成22年(2010)に町指定文化財第2号に指定されました。



「神像」

東大寺水無瀬荘跡



「摂津職嶋上郡水無瀬荘図」

東大寺水無瀬荘は、東大寺造営中の天平勝宝年間(749～56)に聖武天皇の勅(命令文書)により東大寺の荘園になりました。「天平勝宝八歳十二月十六日」の日付のある日本最古の絵図のひとつが正倉院に残っており、この地図から当時の様子をうかがうことができます。